

suGATALOG: ユーザの姿を利用したファッションコーディネート支援システム

suGATALOG: Fashion coordinate supporting system using user's appearance

佐藤 彩夏 渡邊 恵太 安村 通晃*

Summary. 今日着ていく服を何にするか、ということは毎日考えることの一つである。服を選ぶ時は時間のないことが多く、こだわりがあればあるほど時間がかかる。また、服を手にとってみても実際に着てみるとイメージが湧かないため試着する必要がある。本研究では、過去にユーザがユーザ自身の所持する服を着た際に写真を撮影し、それらを用いたファッションコーディネート支援システムを提案する。

1 はじめに

服は生活に欠かせないものであり、その管理や着こなすは日常的な課題である。所有する服が増えると、その管理や把握が難しくなる。さらにその服をどう組み合わせるかといったコーディネートも課題になってくる。服は実際に試着してみないことにはイメージがつかみにくいことが多く、店頭においても試着室が用意されていることが当然となっている。同様に、日常において服を選ぶ際も試着を行うことで着用イメージが分かる。しかしながら、日常で服を決める際は出かける前が多く、時間的にも余裕がないことが多い。したがって、何度も試着したりコーディネートの比較することは困難である。さらに、比較は自分で服を着た状態で同時に行うことはできないため、ファッションコーディネートのプロセスはユーザにとって高度な作業である。

そこで、本研究では日常生活におけるファッションコーディネートをサポートする suGATALOG を提案する。

2 suGATALOG

suGATALOG とは、過去に自分が服を着た姿の写真を用いて試着シミュレーションが行えるシステムである。suGATALOG は部屋で服を着た時や、家を出る時という生活の流れの中で撮影した写真をログとして貯め、それを組み合わせてファッションコーディネートに利用する。

姿写真の撮影: suGATALOG では試着を行う部屋と玄関で姿写真を撮影する (図 1)。部屋では洋服を試着した際鏡で姿を確認する際に同時に撮影を行う。玄関では家を出る際にドアに設置した鏡の前に立った際に同時に撮影を行う。このように、生活の

流れの中で気軽に撮影が行えるような設計になっている。部屋で撮った写真は、最終的に出かける服ではなかったとしても今後の素材として利用できる。そして玄関で撮った写真は最終的に出かけた服が分かるため、いつどのような服装をしたかが分かる。撮影した写真はそれぞれ図 2 の部屋領域と玄関領域に転送される。玄関で撮影した写真はユーザが実際に着て出かけた服装であるため、いつどのような服装をしていたか分かる。

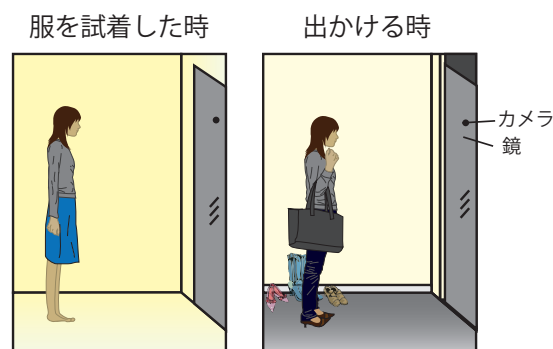


図 1. 姿写真の撮影

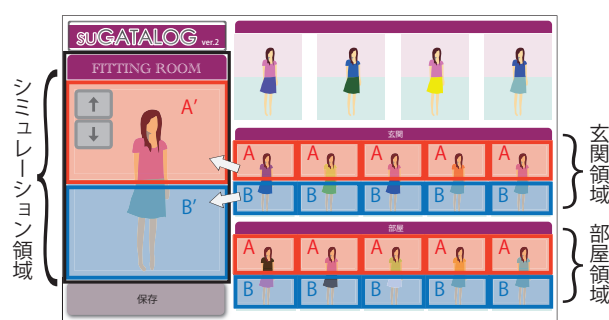


図 2. suGATALOG 画面

試着シミュレーション: 試着シミュレーションしたい写真を部屋領域と玄関領域の中から選択する。各

Copyright is held by the author(s).

* Ayaka Sato, 慶應義塾大学 環境情報学部, Keita Watanabe, 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科, Michiaki Yasumura, 慶應義塾大学 環境情報学部

写真は中央で上下 A・B に二分割されている。A を選択するとシミュレーション領域の A' にその画像が表示され、同様に B を選択するとシミュレーション領域の B' にその画像が表示される (図 2)。このようにして二枚の写真を組み合わせることで一枚のコーディネートを作成することが出来る。服によって着丈が異なるため、調節ボタンで分割する位置を調節する。さらに、「保存」ボタンを押すと、作成したシミュレーション画像を保存され、ユーザはそれらの保存した写真を利用し、並べてコーディネートの比較をすることが出来る。

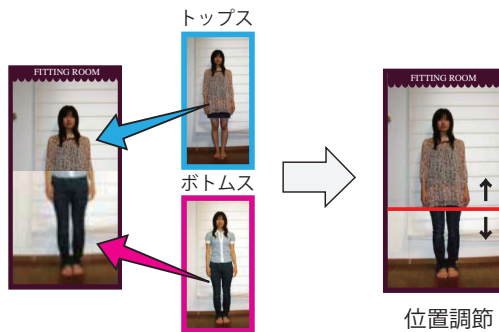


図 3. 試着シミュレーションの作成手順

3 考察

suGATALOG は、服装を鏡で確認したときに同時に撮影を行うため暗黙的に写真を記録することができる。そしてそれらの記録した写真を利用し、上下のコーディネートを用意に行うことができる。ユーザ自身が着用した姿を利用しているため、実際に着用して組み合わせたようなコーディネート画像が得られる (図 4-B)。したがって、実際に着替えなくても着用したイメージがつかめることになり、ユーザが着替えの時間の浪費の削減が期待できる。さらにコーディネートされた画像は保存されるため、比較も容易に行うことができる。したがって、ユーザは所有する服からこれまで以上に容易にコーディネートのバリエーションを作り出すことができる。これは、所有する服を活かすことにもつながる。このように姿を利用したコーディネート支援により、さまざまなメリットが期待できる。ファッションコーディネート支援の研究として長尾らや塚田らによるシステムがある ([1][2]) が、それらはいずれも服だけの写真に着目している。また商品として MyStylist¹ という PSP のソフトウェアがあるが、これも服の写真で服を管理するものである。これらは、服を個別に扱うことができるため、コーディネートには自由さがあるが、図 4-A に示すように、着用していない服の組み合わせは色などは検討できるが、図 4-B と



図 4. 服のみの写真によるシミュレーションと着用した写真によるシミュレーションの比較

比較するとイメージがわきにくい。たとえば、服の形が体のシルエット合っていないことや、顔や手足などが写真に含まれない点があげられる。図 4-B の suGATALOG での得られるシミュレーション画像は、鏡で見たままの自分と近い状態を客観的に見ることができると、コーディネート支援ということを中心にするならば、姿を取り入れた方がメリットが大きいと考える。一方で所有する服を管理することに主眼を置くならば、服のみで写真を撮影したほうがメリットがあると考えられる。

4 おわりに

本研究では、日常生活におけるファッションコーディネート支援を行う suGATALOG を試作し、その考察を行った。生活の流れの中で得る姿画像を利用し、トップスとボトムスを合成することで、鏡でみるような自分の姿を保持したままのコーディネートシミュレーションを実現した。また、服装の比較が行えることで何度も着替え直すことなく服装を選ぶことができるようになった。そのため、服装を選ぶ時間を短縮できるだろう。今後は、実際の日常生活においてにおいて長期的に利用し、その評価を行いたい。

参考文献

- [1] 長尾 聡, 高橋 伸, 田中 二郎. 過去の行動から服のコーディネートを推薦する鏡状アプライアンス. ヒューマンインタフェースシンポジウム 2007 論文集 (CD-ROM), ROMBUNNO.3212, September 2007.
- [2] Tsukada, K., Tsujita, H., Siio, I., TagTansu: A Wardrobe to Support Creating a Picture Database of Clothes, Adjunct Proceedings of pervasive2008, pp. 49-52, (2008).

¹ <http://www.jp.playstation.com/scej/title/mystylist/>